

3 「ひとめぼれ」の発芽特性と休眠の程度を左右する条件

福島県農業試験場会津支場・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 水稻－水稻－採種・繁殖 分類コード 01-01-02040000

2 担当者 手代木昌宏・松本靖・大谷裕行

3 要 旨

(1)「こがねもち」(穂発芽性易)、「ササニシキ」(穂発芽性中)、「ひとめぼれ」(穂発芽性難)の発芽速度を比較すると、「ひとめぼれ」<「ササニシキ」<「こがねもち」であり、発芽温度が低いと品種間差が大きくなった。

(2)「ひとめぼれ」は、浸種水温が低いほど、長期間にわたり浸種しても浸種の効果が低く、発芽率が高まらなかった。

(3)「ひとめぼれ」は、登熟後半の気温が高い条件あるいは登熟期前半の気温が低く、登熟前半と後半の気温較差が小さい条件で休眠が深くなり、登熟期後半の気温が低く、登熟前半と後半の気温較差が大きい条件で休眠が浅くなる傾向が認めれた。

(4) 以上から「ひとめぼれ」は、登熟期の温度条件によって休眠が深くなる場合があり、休眠覚醒が不十分な状態では、浸種水温が低いと浸種を行っても発芽が均一にならないことから、浸種水温が低くならないよう注意が必要である。